

### ●メスは夏に向かって複勝率が上昇

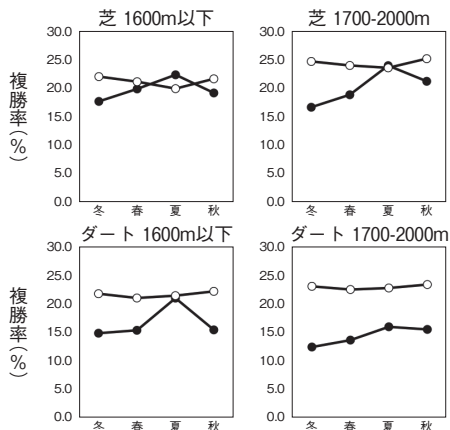
これまでに、夏は牝馬が強いことは季節ごとの複勝率の変化から妥当であることは述べた。これは、オスの有力馬の休養や開催場の違い、暑さに対する強さの違いではないことも述べた。今回は、馬場や距離の違いがメスの夏における複勝率の上昇にどのように関係するのか見てみる。2016年-2020年の牝馬限定競走を除く平地競走の性別複勝率を馬場別、距離別に計算したグラフを図に示す。以前示したように、芝でもダート馬場でも、どの距離でも夏に向かってメスの複勝率が上昇し、冬には低くなっていた。しかし、馬場別にみると、芝競走では1600m以下の距離では、メスは夏にオスおよびセン馬(オス)よりも高い複勝率を示し、1700m-2000mでも、夏にオスと同等の複勝率を示した。一方、ダート競走では1600m以下の距離ではメスの複勝率はオスに近づいたが、1700m-2000mでは夏に上昇したもののオスよりも低い値を示していた。

この結果を見ると距離については1700m-2000mの競走よりも1600m以下の競走の方がメスにおける夏の複勝率の向上が目立つ。ヒトにおいて、走競技の世界記録により男女を比較すると、100mからマラソンまでは、どの距離であっても女性のタイムが男性よりも10%程度遅くなる。マラソンよりも長い距離では男女差は小さくなるともいわれているが、それでも男女差は存在する。競馬をヒトの走競技に置き換えると400m-1500mの中距離と考えられ、100mからマラソンまでの間に含まれる。そのため、ヒトと同じだと考えると走行タイムに対する性別の影響は距離により変わらないと推察される。しかし、距離が長くなるとメスの複勝率が芝でもダートでも低下する。これは、タイムが遅くなる割合は競走距離により変わらないが、オスとメスのタイム差は距離が延びると大きくなっていくので、複勝率は距離が延びるにつれて低下するのではないかと考えられる。

### ●パワーが関係すると性別の影響が大きくなる

また、芝とダートを分けてみると、ダートでは夏に複勝率が上昇するが、1700m-2000mの競走ではオスに迫ることができていない。前回、オスとメスは体重が同じくらいでもダートの複勝率はメスが低いことを紹介し、ダートではパワーが必要だからではないかと述べた。ヒトにおいて単純にパワーを性別に比較するものとしてウエイトリフティングの世界記録を見ると、同じくらいの体重クラスであっても、上げられる重量は女性の方が20%程度軽く、走る競技のタイム差と比べると影響の割合が大きい。このようにパワーが関係すると性別の影響が大きくなり、パワーが必要と考えられるダートでは、複勝率に対する性別の影響が大きいのではないかと推察される。そのため、ダートの1700m-2000mの競走では、夏にメスの成績が向上しても複勝率は、オスに追いつくまでは上昇しないのではないだろうか。

また、出走頭数の牡牝の比率を季節ごとにみると、1600m以下の競走では芝でもダートでも他の季節に比べて、夏にメスの出走比率が高く、このことも夏の1600m以下の競走では、メスの複勝率が高いことに影響していると考えられる。



▲図 芝およびダート競走における性別季節別複勝率(2016-2020年) ○オスおよびセン、●メス、冬(1-3月)、春(4-6月)、夏(7-9月)、秋(10-12月)